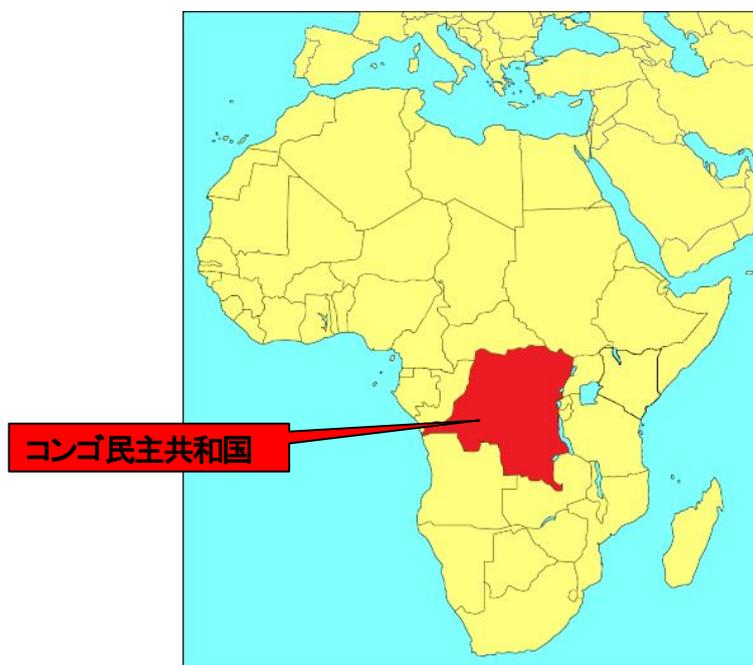


## コンゴ民主共和国でサル痘が発生

2011年1月13日 ProMED 情報(Radio Okapi)



赤道 Equateur 州の北部と南部でサル痘が流行しています。少なくとも同州内の3つの保健地区で患者が発生しています。

世界保健機関(WHO)赤道州支局によると、ビコロ Bikoro 保健地区では、死亡患者5名を含む患者114名が発生しました。そのほとんどがムバンダカ Mbandaka から約82キロメートル(51マイル)離れた同地区の Mooto 地域で報告されました。

2週間前、Gbadolite 保健地区では、同様の病気の患者発生が疑われました。検体は、キンシャサ Kinshasa の INRB(国立生物医学研究所)に送られ、検査の結果、原因がサル痘ウイルスであることが確認されました。Boende 保健地区でもサル痘確定診断患者が報告されています。赤道州全体での感染者数は、現時点では不明です。

このサル痘流行に関して必要なことは、衛生規則を守ることです。保健担当者は、発生地区の農家に対し、森林の中で、サル痘ウイルスのヒトへの感染源となりうるサル、リス、センザンコウなどの動物の死体には触れないよう指導しました。

### [ProMED 調整者]

サル痘に対しては、天然痘ワクチンの接種によって免疫が成立しますが、サル痘は、天然痘と比較しやや病原性は低いものの、感染後に瘢痕を残したり死亡することのある感染症です。サル痘は、天然痘ほど効果的にヒト-ヒト感染をおこしません。サル痘は、通常はげっ歯類やリスに感染していますが、時に他の種類の動物に感染します。しかしながら、ヒトに重篤な症状を引き起こすことがあることから、一定の状況では感染予防のために天然痘ワクチンを使用することが必要かも知れません。